



地 自助・共助の意識を育てる場 地域防災訓練を実施

地域防災訓練が12月4日、市内全域で実施されました。市立御前崎総合病院では、救護所開設や運営訓練が実施され、市民や市・病院の職員ら約150人が参加しました。同訓練では、市民トリアージと救護所トリアージが実施され、医師や看護師、消防士などが実災害を想定した対応をして、互いの連携を確かめました。参加した地元開業医は「実際の現場と同じように訓練することが大切」と話しました。



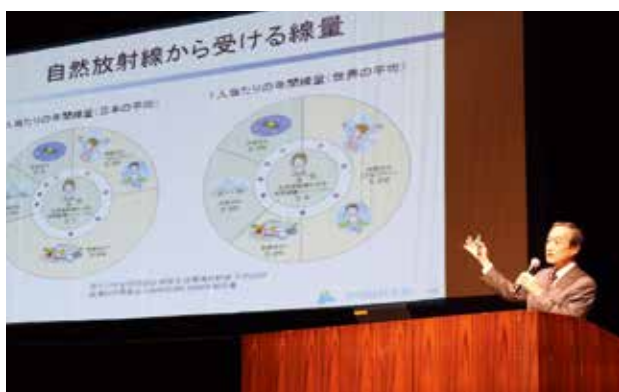
将 地元で働く”カッコイイ”大人 来の選択肢を広げる

社会科授業の一環で「この街のこと知っている？ 御前崎・地頭方ではたらく大人の本気を」という授業が12月5日に実施され、御前崎中3年生約90人が参加しました。御前崎中学校区で働く人々が講師を務め、自分の仕事内容を説明するとともにこの地域に寄せる思いを話しました。話を聞いた坂本遼太さん(大山区)は「御前崎のために何かできないかと感じた」と話しました。

正 意識や理解の向上を図る 正しい知識で向き合う

「やさしい放射線と放射能の基礎知識」をテーマに浜松医科大学の阪原晴海教授を講師に迎え、防災講演会が12月9日、市民会館で開かれ市民約150人が参加しました。

講演では、放射線が人体へ及ぼす影響などを図や事例を交えて分かりやすく説明しました。また、現在市で配布している安定ヨウ素剤についても、あらためて効果などが説明されました。



地 「食」は生命の源 元の食材で食欲増進

市農業振興会が12月14日、夢咲牛や米、芽キャベツなどの地元農産物を市立御前崎総合病院へ提供し、その食材で作られた病院食が、回復期リハビリ病棟の患者に振る舞われました。

ハヤシライスやサラダなどのメニューすべてに地元産品が使われ、患者の皆さんは「どれもおいしい」「全部に地元の食材が入っているなんて驚いた」と喜び、完食しました。